

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名: 三郷市

再委託団体: 公益社団法人国際日本語普及協会

1. 事業名称

生活者としての外国人のための日本語教育事業

2. 事業の目的

第三国定住難民に対し日本語学習及び生活支援を実施しているボランティア日本語教室の活動を支援し、難民の定住生活の安定を図ることを目的とする。

地域に定住した第三国定住難民に対する日本語学習支援を、地域の人と共に行うことによって、第三国定住難民の日本語力向上を図るとともに、地域において第三国定住難民への理解が進むこと、日本語教育を行う人材が地域に育つこと、継続的な日本語学習支援が地域で行われていくことを目指す。

3. 事業内容の概要

第三国定住難民に対して適切な日本語学習支援を行うとともに、難民が置かれている特有な背景とその指導法について、指導者の理解促進を図り、第三国定住難民が生活していくための学習教材を共に作成する。

4. 運営委員会の開催について

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成 24 年 3 月 14 日 10:30～ 12:00	1 時間 30 分	三郷市 役所	新野佳子、 伊藤寛了、 中村豊	平成24年度 の事業実施状 況	1)日本語教室の設置・運営の実施状 況 2)日本語教育を行う人材の養 成・研修の実施状況 3)日本語教育 のための学習教材の作成の実施状 況

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 カレンのみなさんのための日本語教室

(2) 目的・目標

日本に定住した第三国定住難民第二陣が定住先で円滑な社会生活を送っていくために必要

な日本語力を獲得する。

◎具体的目標

- 1) 三郷で友達を作ろう
- 2) 読みと書きの力を伸ばそう

(3) 対象者 第三国定住難民第二陣 8名

(4) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

オリジナル日本語教材(講師作成)

日本語教材作成ワークショップで作成した教材、ならびにそれをもとにしたアレンジ教材

『かんじだいすき1. 2. 3』 公益社団法人国際日本語普及協会発行

三郷市地図 三郷市内写真(講師撮影)

詩『生きる』谷川俊太郎

(6) 受講者の総数 6 人 (出身・国籍別内訳 カレン人 6人)

(7) 受講者の募集方法

・チラシの配布と、受講者である口頭による説明

(8) 日本語教室の具体的内容

定住先の三郷市では、すでに民間のボランティア団体等が定住外国人支援の活動実績をもっている。他方、同市には多くの外国人が居住しているが、ミャンマー国籍の人は6人しかおらず、なかでもカレン人の受け入れは初めてである。この第三国定住難民に対する日本語支援体制が求められているため、関係機関と連携を取り、日本語教室を設置・運営する。

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成 24 年 11 月 11 日 10:00-12:00	2時間	13 人	カレン人 5 人 日本人支援者 8 人	自己紹介 三郷で友達をつくる	参加者全員の名前を覚え、お互いについて知り合うためのアクティビティを行う。
2	11 月 25 日 10: 00-12:00	2時間	15 人	カレン人5 人 日本人支援者 10 人	ポスター読解 必要な情報をとる 友達を誘う/誘われる	実際に参加する「お餅つき大会」のお知らせを読み、内容を理解し、必要な情報をとる。よく使う表現「誘う・誘われる」を学習する。 かんじだいすき1

3	12 月 9 日 10:00-12:00	2時間	16 人	カレン人5人 日本人支援者 11 人	お餅つき大会に参加する	お餅つき大会参加の事前準備/会話の練習 (挨拶、お礼の述べ方など) お餅つき大会に参加して話をする。わからないことを質問する。
4	12 月 16 日 10:00-12:00	2時間	11 人	カレン人3人 日本人支援者8人	経験したことを言語化する (経験したことを話す、書く、発表する)	お餅つき大会の写真を見ながら、様子を思い出し話す。話したことを文章化し、発表する。自国の文化と比べて話す。 かんじだいすき1
5	平成 25 年 1 月 13 日 10:00-12:00	2時間	18 人	カレン人5人 日本人支援者 13 人	日本のお正月 カレンのお正月	支援者の方による日本のお正月についてのミニプレゼンテーション カレンのお正月について話し、書き、発表する かんじだいすき2
6	1 月 27 日 10:00-12:00	2時間	10 人	カレン人2人 日本人支援者 8 人	自分の住んでいる町(三郷)について知る	三郷の全体地図、自宅周辺の地図を見ながら三郷について話す。三郷の全体地図、自宅周辺の地図の大まかな読み取り
7	2 月 10 日 10:00-12:00	2時間	11 人	カレン人5人 日本人支援者6人	自宅周辺地域について知る。自宅周辺地域の地図作成	自宅周辺地図の読み取り、自分たちがよくいくところの位置関係の把握、自宅周辺の地図を共同で作成。自分のお気に入りの場所を紹介する簡単なミニプレゼンをする。
8	2 月 24 日 10:00-12:00	2時間	15 人	カレン人4人 日本人支援者 11 人	『生きる』オリジナル版作成 スピーチ原稿作成準備	詩『生きる』(谷川俊太郎)からオリジナル版作成 スピーチ原稿にむけての話しあい、書く作業 (三郷の 1 年の振り返り、5 年後の日記)
9	3 月 3 日 10:00-12:00	2時間	16 人	カレン人6人 日本人支援者 10 人	学習発表会準備 三郷の一年を振り返り、将来を考える	『生きる』オリジナル版完成・発表練習 スピーチ原稿を書く、練習する。前回の追加「将来の夢」
10	3 月 17 日 10:00-12:00	2時間	23 人	カレン人5人 日本人支援者 18 人	学習発表会	『生きる』オリジナル(支援者と学習者合同発表) 発表「三郷に来て一年がたちました」 地図を見て話そう「三郷市はどんなところ？」

(9) 特徴的な授業風景

5 回目 (1 月 13 日) 授業報告

0. ウォーミングアップ

- ・新年の挨拶 (全員と行なったが上手にできた)

「明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いします。」

- ・今日の年、日付、曜日 ~ 2013 年 平成25年 平成天皇などの話題

- ・プロソディ「きました」学習者のオリジナルバージョン作成

嬉しいものの例として「日本語の勉強」「日本語の勉強が始まった」を出した学習者が多かった。学習者作成の「新しい年、2013年が来ました」バージョンを全員で行う。

1. コースの目標 新年にあたり再確認 (簡単に行う)

1) 三郷で友達を作ろう → 三郷版ユニット学習(総合学習)へ

2) 読みと書きの力を伸ばそう → 一般言語学習

2. 今日の日本語教室の目標

- ① 日本のお正月について疑問点や知りたいことなどを聞き、知識を得る。

お正月に見たこと、したことを話す。

- ② カレンのお正月について話す。簡単にまとめて書き、発表する。

- ③ かんじだいすき 復習 漢字学習3回目

3. アクティビティ1 日本のお正月についてのミニプレゼンテーション

学習者に伝えたい日本のお正月について、支援者が学習者にわかりやすい日本語でプレゼンを行なった。12月の前回の教材ワークショップで作成したプリント、用意してきた写真、本、実物などを工夫して使いながら、「おせち料理」、「黒豆」、「お正月の遊び(かるたとり)」、「年賀状」、「お年玉」について5人がプレゼンを行なった。

オリジナルの読み物プリントを作成してきた支援者もあった。

(日本のお正月についてのミニプレゼンを聞き、カレンのお正月について話したいと思って貰えれば大変良い)お正月に見たこと、したこと、食べたものなどを話す。(学習者の知りたいことを最優先する。学習者の発話を引き出す問いかけを意識する。)

4. アクティビティ2 (日本のお正月・カレンのお正月 WS 配布)

日本のお正月についてのミニプレゼンを聞き、学習者が日本のお正月について疑問に思うことや知りたいことなどを聞いたり、お正月に見たこと、したこと、食べたものなどを支援者とペアになって話す。

5. アクティビティ3 まとめ お正月クイズ

日本のお正月について、ミニプレゼンで聞いたことや、支援者と話した事の中から、日本人なら知っているよく使うキーワードをクイズ形式で答えながら復習。

支援者の方にも2題クイズを作ってもらった。

また、答えであるキーワード(おとしだま、おぞうに等)をWSに書く
(支援者がサポート)

6. アクティビティ4 カレンのお正月について話す。簡単にまとめて発表。

支援者は学習者が話したことを文章化するサポートを行なった。

其々の学習者がカレンのお正月の違った面を説明し、全員でシェアした。支援者も大変興味深く聞いた。(お正月は皆で歌を歌う、グループを作って、グループ毎に踊りを踊り、優勝者はトロフィーをもらう、日本の重箱のような重ねた入れ物(形は日本と違い、まるい)にごちそうを入れる、ココナッツで煮込んだ料理を食べるなど) 発表した学習者に、支援者から一つずつ質問をしたが、学習者は質問の意味を理解し、答えることができた。

7. お正月の遊び 福笑い

時間が少し残ったので、1月の初回でもあり、日本の遊び「福笑い」を行なった。

最初支援者の方に例を示して貰った後、3人の学習者が自分からチャレンジした。

「右、もう少し下」など日本語でアドバイスをを行いながら、大いに笑うことができた。

8. まとめ、振り返り

6 回目(1月27日)授業報告

0. ウォーミングアップ

今日の日付、曜日

・あたらしいプロソディ「さよならさんかく またきてしかく」

忘れていたことばもあったが、一緒にやっていく中で思い出したものも多く、

1回目で最後まで言うことが出来た。

・一人一言(今週したこと、近況などを一人ずつ話す)

皆が話した中から新しい語彙を学習(新年会、実家、半袖、卓球など)

風邪を引いた、電車が遅れて大変だったなどと話した人に返す定型の言葉を練習。

(お大事に。それは大変でしたね。)

1. 今日の日本語教室の目標説明

このコースの全体目標とからめて今日の目標を話す

- ・自分の住んでいる町(三郷)について知り、自宅周辺の簡単な地図を作ろう。
- ・文字学習 かんじだいすき 復習 漢字学習3回目 自分のペースで勉強する

2. アクティビティ1(三郷市全体の地図)

三郷の全体地図を見ての話し合い

- ・三郷はどんな形をしているか。どこにどんなものがあるか。
- ・三郷にある2つの駅、鉄道、川、その名称と位置、自宅、職場など、地図上で大まかな位置関係を掴む。
- ・三郷市の形(川で囲まれているので水色で)をなぞって書く(学習者が、(三郷市の形は)鳥に似ていると感想を述べる。)
- ・地元に住んでいる支援者から、市役所などの位置を教えてもらう。

3. アクティビティ2(自宅周辺の地図)

自分の家の周囲について地図を見ながら 何があるか、それは地図上でどこかを話しながら、地図上にいれていく。

- ・北集会所、自宅、鮎駒、新三郷駅、ららぽーと、IKEA、セブンイレブンなど。
- ・Yさんの家の前にセブンイレブンがあり、その向かいに病院がある、ららぽーとの反対

側に IKEA があるなどが学習者から出る。何かを基準にして位置関係をつかむ。

- ・名称を地図にいれ、文字学習も行なった。（「しゅかいしょ」など表記ミスを訂正）
- ・次回の学習までに、日頃歩く道で目に付くものをメモしたり、写真に撮ったりしておきたい、という発言も学習者から出た。

4. 日本のお正月ミニプレゼン

前回行なった支援者によるお正月ミニプレゼンの続き。

前回欠席だった支援者が、和服（お正月に着る晴れ着として）について ipad でプレゼンを行った。

5. かんだいすき 2より

学習者とペアになっての個別学習 既習なので一覧をつかったの総復習

6. まとめ、振り返り

(10) 目標の達成状況・成果

- ・概ね再委託団体報告資料のとおり。また受講者には、開始前は当事業に対し、億劫な様子も見受けられたが、徐々に楽しみながら学ぶ様子が見受けられた。

「三郷で友達を作ろう」「読み書きの力を伸ばそう」を目標にし、支援者の方とともに、様々なアクティビティを行った。毎回、目標を学習者、支援者とともに声に出して確認し学習をスタートした。教室に顔を出してくれた支援者はもちろん、餅つき大会で挨拶した人々などの間に学習者のことが認知され、外で会っても気楽に声をかけていただける関係、またその際は挨拶を交わし、気後れすることなく会話する関係を構築することができたのではないかと。難民自身が三郷市に愛着を持ち、この市で生活していくことへの喜びを感じている様子が伺えた。支援者とともに地図作りを始め三郷市をテーマに学習活動を展開できたことがよかった。

支援者の中には、当初支援の方法に迷いがあり、学習者を前に自分ばかりが話したり、難しいことばを使用したりするケースも見られた。しかしその人たちも回を重ねるごとにコツを掴み、上手に話の引き出し役にまわるようになっていった。同じ頃、遠慮がちだった学習者の口数が多くなり、自分から質問したり、率先して手をあげて発表をしたりするようになった。このふたつが同時に起きたのは決して偶然なことではなく、教室の雰囲気が和らぎ、相互に自然なコミュニケーションが生まれるようなアクティビティ（プロソディ等を含む）を工夫して実施していく中で、本物の会話が生まれ、双方が自然によい塩梅のコミュニケーションの方法を会得していったということだといえる。学習者、支援者双方が相互交渉の中で互いに成長していったことは、今回の教室運営の形式に関し、高く評価されてよいことのひとつだと思われる。

また、支援者研修の中に一貫して三郷市職員が参加したことの意義も大きい。自治体職員が、難民の家族について理解を深め、教室運営のみならず彼らの日本語をとりまく諸問題について考える場を支援者とともに共有したことは、今後の日本語継続支援にとって大きな力となる。

(11) 改善点について

男性学習者は出席率もよく、熱心に学習ができたことに対して、女性学習者は日曜日が勤務日で、シフト調整ができず参加できない人がいたのは残念である。他の曜日に開くと今度は男性学習者が参加できなくなり、都合の良い日は個々人で異なるため、開催日時の設定は難しいと思うが、何等かの工夫が必要だと考える。

10回の教室では、やはり話すこと(コミュニケーション)に重点がいき、読み書きの練習時間が十分には取れたとは言えない。学習者はもっと勉強したいという希望をのべ、終了時間後も個々に話が続き、なかなか解散にならなかったことなどを考えると、今後の日本語教室の継続が強く望まれる。



6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(2) 目的・目標

定住先の三郷市では多くの外国人が居住しているが、ミャンマー人は6名しかおらず、カレン人の受入れは初めてである。既に民間のボランティア団体等が定住外国人の日本語支援をしているが、カレン人の日本語支援の経験はない。よって、第三国定住難民に合わせた効果的な日本語支援ができるよう日本語指導者の研修を実施する。

(3) 対象者 三郷市で日本語ボランティアとして活動している方

(4) 開催時間数(回数) 18 時間 (全 14 回)

(5) 使用した教材・リソース

(6) 受講者の総数 20 人 (日本)

(7) 受講者の募集方法

・市内で活動している日本語教室のボランティアスタッフ、他日本語ボランティアに関心のある方。

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
全体講座/ 講師養成講座						
1	10月13日 10:00-12:30	2時間	20人	日本人支援者20人	全体講座 セミナー (第三国定住難民支援にあたって)	第三国定住難民の方々に私たちができること～日本語教育支援を通じて～
2	10月15日 18:30-20:30	2時間	19人	日本人支援者19人	講師養成講座 日本語の基礎知識①	日本語特徴、音声、文字表記
3	10月22日 18:30-20:30	2時間	16人	日本人支援者16人	講師養成講座 日本語の基礎知識②	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
4	10月29日 18:30-20:30	2時間	17人	日本人支援者17人	講師養成講座 日本語教室スタートへ向けての準備	日本語教室スタートへ向けての準備ーわかりやすい日本語ー
「カレンのみなさんのための日本語教室」の支援者養成・研修						
1	平成24年 11月11日 9:30-10:00 12:30-13:00	1時間	8人	日本人支援者8人	自己紹介 三郷で友達をつくる	参加者全員の名前を覚え、お互いについて知り合うためのアクティビティサポート。
2	11月25日 9:30-10:00 12:30-13:00	1時間	10人	日本人支援者10人	ポスター読解 友達を誘う/誘われる	実際に参加する「お餅つき大会」のお知らせ読解・内容理解・必要な情報とりのサポートよく使う表現「誘う・誘われる」を学習支援。 かんじだいすき1の学習支援
3	12月9日 9:30-10:00 12:30-13:00	1時間	11人	日本人支援者11人	お餅つき大会に参加する	お餅つき大会参加の事前準備/会話の練習(挨拶、お礼の述べ方など)サポート お餅つき大会参加における日本語支援
4	12月16日 9:30-10:00	1時間	8人	日本人支援者8人	経験したことを言語化する	経験したことを言語化するサポート(お餅つき大会の写真を見ながら、様子を

	12:30-13:00				(経験したことを話す、書く、発表する)	思い出し話す。話したことを文章化し、発表する。自国の文化と比べて話す。)かんじだいすき1の学習支援
5	平成 25 年 1 月 13 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	13 人	日本人支援者 13 人	日本のお正月 カレンのお正月 ミニプレゼンテーションをする	(支援者の方による)日本のお正月についてのミニプレゼンテーション 学習者から話を引き出す(カレンのお正月について話し、書き、発表する)かんじだいすき2の学習支援
6	1 月 27 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	8 人	日本人支援者 8 人	自分の住んでいる町(三郷)について知る	三郷についての知識を増やす支援(三郷の全体地図、自宅周辺地図を見ながら三郷について話す。)三郷の全体地図、自宅周辺地図の大まかな読み取り支援
7	2 月 10 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	6 人	日本人支援者 6 人	自宅周辺地域について知る。自宅周辺地域の地図作成	自宅周辺地図の読み取り、自分たちがよくいくところの位置関係把握、自宅周辺地図共同作成の支援。学習者によるお気に入り場所紹介ミニプレゼンのサポート。
8	2 月 24 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	11 人	日本人支援者 11 人	『生きる』オリジナル版作成 スピーチ原稿作成 準備	詩『生きる』(谷川俊太郎)からオリジナル版作成サポート スピーチ原稿にむけての話しあい、書く作業支援(三郷の 1 年の振り返り、5 年後の日記)
9	3 月 3 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	10 人	日本人支援者 10 人	学習発表会準備	『生きる』オリジナル版完成・発表練習支援 スピーチ支援(原稿書きと練習。)前回の追加「将来の夢」の原稿書き支援
10	3 月 17 日 9:30-10:00 12:30-13:00	1 時間	18 人	日本人支援者 18 人	学習発表会	支援者と学習者合同発表『生きる』オリジナル版支援 「三郷に来て一年がたちました」「地図を見て話そう・三郷市はどんなところ？」発表支援

注) 13:00～15:00を教材作成ワークショップの時間に充てた。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

12 月 16 日

事前準備研修

1. レジューメ(別添)配付し、本日の日本語クラスの流れを説明

虫、星、人のおもちつきバージョン実施の説明

2. 今日の日本語教室の目標

- ① 餅つき大会で会った人、見たもの、食べたもの、餅つきの手順等を写真を見ながら思い出して、話す。
- ② 話したことを、まとめて書いて、発表する。
- ③ かんじだいすき 復習 漢字学習 2 回目

3. アクティビティ1 写真を見ながら話そう

4. アクティビティ2 話したことを書いてみよう

アクティビティで支援者にお願いしたいことを説明

(・学習者が知っていること、わかっていることは学習者から発話してもらうために、問いかけ、会話のリードの仕方を説明、学習者の発話を待つことも大切、学習者にとって必要なもの、興味があるものなどをチョイス、全てを取り上げる必要はない。一つ的话题を掘り下げたり、広げたりするのもよい。

・書きの作業は、学習者が話したことからまとめる。そんなに長い文を書かなくてよい。単文1文でもよい。一度口頭で言ってみてから書くとよい。学習者によっては書いてもらってから直すのも可。)

5. かんじだいすき 今日で「かんじだいすき1」を終了する

全体学習 個別学習の仕方説明 振り返りシート記入の依頼

事後振り返り

支援者と振り返りおよび懇談

2月24日

事前準備研修

レジュメ(別添)配付し、本日の日本語クラスの流れ、目標を説明

1. 今日の日本語教室の目標

・3月17日の発表会に向けての準備

- ① プロソディ『生きる』(谷川俊太郎+オリジナル)
- ② 発表会スピーチ原稿

三郷に来てがんばったこと。自慢できること。

5年後の日記を書く。→ 将来の希望へつなげる。

・文字学習

かんじだいすき 2, 3

漢字学習4回目 個別学習

2. アクティビティ1に関する支援の方法

学習の流れ: 新しく導入するプロソディ谷川俊太郎の『生きる』(抜粋)を味わって読む。語彙や表現の手当て→自分にとっての『生きる』を考え、書く。

『生きる』全文読み聞かせのあと、支援者の方にもどんな詩が味わってもらう。

オリジナルバージョンの作り方および全員での発表形式を実例で示し、イメージをつかんでもらう。支援者の方々も、オリジナルバージョンを書いてもらうよう依頼。

3. アクティビティ2

発表会用のスピーチ原稿作成。

学習の流れ:

- ①三郷に来て、自分が頑張ったこと、できるようになったこと
- ② 5年後の日記:5年後の今日、自分や家族が何をしているかを考えて、想像上の日記を書く。(希望を明らかにする)

スピーチ原稿作成に向けて、三郷に定住してからの日々を振り返り、頑張ったことだけでなく、今後への期待、自分が将来に抱いている夢や希望を引き出すサポートをする。

4. かんだいすき 2、3より 学習者とペアになっての個別学習

5. 振り返り 振り返りシートにご記入をお願いします。

・振り返りシート記入の依頼

事後振り返り

支援者と振り返りおよび懇談

初めて参加した学生ボランティア(本日は子どもの支援を担当)には、子ども支援の感想なども聞き、話しあう。

(10) 目標の達成状況・成果

日本語教室の前に行われる研修は支援者と講師が本日の目標や、活動の意義などを確認する意味で、たとえわずかな時間であっても必要不可欠である。連絡事項や子どもたちのケアの調整などで、なかなか全員が同時に始められないときがあったり、後から参加した支援者のために再度説明することも何度かあったが、こうした朝の忙しい短い時間でも効果的に日本語教室の準備ができるよう、毎回、授業の流れや支援のポイントなどをレジュメにして配布したことは、よりよい日本語教室の実施に寄与したと考える。

毎回参加者に提出してもらった「振り返りシート」は、参加した活動への感想やコメントのみならず、自分に対する気づきや内省など何でも自由に記述する形式のものである。60枚にも及ぶ「振り返りシート」からは参加者に気づきや疑問が生まれ、それを解決していったり、よりよい支援を目指して実践努力していく姿やその過程が見えてきた。これらの「振り返りシート」から講師も日本語教室の内容や進行についての気づきや内省を得、また大いに励まされもした。「振り返りシート」も研修に一定の役割を果たしたといえる。

11月から始まった日本語教室実施のための支援者研修は、日本語教室の前後に行われるという時間設定のためか、参加者こそあまり多くなかったが、継続して出席した支援者は、ワークショップでの内容をうまく日本語教室で活かすことができた。

また地域の支援者だけでなく、他地域でボランティア活動をしている人、また後半は特に難民支援に関心のある学生など多様なメンバーが参加したおかげで、さまざまな視点からカレン難民の支援について考えることができた。

(11) 改善点について

10月に行なわれた全体講座、講師養成講座には数多くの方が参加されたが、それに比べて11月から3月にかけて行われた「カレンのみなさんのための日本語教室」へは参加数が少なかったため、参加された方の負担が大きかったと思う。また、学習者には小さい子どもさんがいるので、学習に集中するためには、その間子どもの面倒を見る必要があり、支援者の方がその支援に回るため、毎回複数の方が日本語教室に参加できなかった。日本語教室に参加できない方にとっては、事前の準備研修は生かせず、振り返りも共有できない。子どもを持つ大人の学習支援を充実させるためには、子どものケアについても配慮が必要と考える。



7. 日本語教育のための学習教材の作成

身近にあるものを有効活用しよう

- (1) 教材名称 カレン難民のための教材を考える―身近にあるものを有効活用しよう―
- (2) 対象 : 支援者
- (3) 目的・目標
地域のお知らせ、ポスター、看板など身近な媒体を教材として活用する。
- (4) 構成
地域の情報の種類、入手方法を整理する。→実際のお知らせ等を見ながら学習者に役立つ支援のしかたについて考える。
- (5) 使いかた
『断水のお知らせ』のサンプルから、キーワード、覚えて便利な生活漢字を選択する。
- (6) 活用例
地域で入手できる様々な媒体から、学習者にとっての必須語彙を抽出し、リストを作成する。

漢字学習支援―『かんじだいすき』を使って

- (1) 教材名称 カレン難民のための漢字学習支援～漢字を楽しく学習しよう～
- (2) 対象 支援者
- (3) 目的・目標
 - ・地域に定住するカレン難民の読み書き学習の必要性について理解する。
 - ・漢字学習支援をする場合のさまざまな方法について学ぶ。
- (4) 構成
 - ・地域に定住するカレン難民にとっての読み書き学習の意味と方法を考える。
 - ・漢字学習教材『かんじだいすき』を例にとり、読み書きの鍵となる漢字学習の具体的な支援ポイントを考える。
 - ・『かんじだいすき』そのほかの漢字教材を使用したさまざまなアクティビティを紹介する。
- (5) 使い方
『かんじだいすき』を今後クラスで使用する際の参考とする。
- (6) 具体的な活用例
 - ・漢字学習教材『かんじだいすき』テキスト本冊、付属カードを使用し、支援者が一対一で支援、またはクラス全体で学習する。
 - ・カードを使用したマッチングゲーム、神経衰弱など。
 - ・学習漢字を使用したすごろく作り、かるた制作など。

経験したことを学びに変える(お餅つき大会に参加して)

- (1) 教材名称 餅つき大会参加にあたっての日本語支援
- (2) 対象 支援者(学習者)
- (3) 目的・目標

学習者と支援者が体験を共有することで、そこで新しく覚えた言葉や、見たこと、やったことを振り返って話す。

(4) 構成

餅つき大会を振り返りながら、そこで使われた言葉を拾い上げる

→写真を見ながら共有体験を話す

→学習者の発話を引き出すために有効な問いかけについて考える

(5) 使いかた

教材例をもとに、実際の餅つき大会で撮った写真を用いて同様の振り返り教材を作る。

(6) 活用例

作成した振り返り教材をもとに、学習者と共有体験を話し、話したことを文章化する。時系列に写真を並べることで、順序立てて話す練習をする。印象に残ったことを話したり、感想を述べる。さらに、自国での同様の体験についても話す。

日本のお正月、カレンのお正月

(1) 教材名称 日本のお正月を紹介しよう～わかりやすい日本語でミニプレゼン

(2) 対象 学習者 支援者

(3) 目的・目標

支援者と学習者がお正月という日本、カレン双方にある文化を理解し合う中で学習者は日本語のコミュニケーション力を付けていき、支援者はわかりやすい日本語を話す力をつけていく。

(4) 構成

支援者

教材ワークショップで作成したプリント、写真、本、実物などを工夫して使いながら、日本のお正月についてわかりやすい日本語で説明を試みる。

学習者

日本のお正月についてのミニプレゼンを聞き、質問をしたり、お正月に見聞きしたことを支援者とペアで話しあったりする。

またカレンのお正月について話し、簡単にまとめて書いた後、発表する。

(5) 使い方

支援者が日本のお正月について説明するときのヒントとする。

(6) 具体的な活用例 上述

(7) 成果物の添付 (添付参照)

三郷便利マップ作成

(1) 教材名称 学習者といっしょに作ろう ～三郷便利マップ～

(2) 対象 支援者 学習者

(3) 目的・目標

・学習の成果にもなり、完成後、便利に使うことのできる三郷の地図を支援者と学習

者の協働作業として作成する。

- ・学習者は作成の過程でたくさんの日本語に触れることで、自然な形で日本語を身につけていく。支援者はこのような内容重視の学習方法を理解する。
- ・支援者は紹介文を書く中で、自己の日本語を振り返り、わかりやすい日本語を書くことを意識できるようにし、今後の支援に役立てる。

(4) 構成

支援者

- ・三郷の既成の地図を使用し、どのような点を工夫すれば学習者によりわかりやすいものになるかを考える。
- ・学習者にわかりやすいように配慮しながら、地図とおすすめのスポットについての説明文を書く。
- ・学習者が地図を作成し、おすすめスポットについて説明ができるよう、支援の仕方を考える。
- ・学習者が地図を使って道順説明ができるためには、どのような点に留意すればよいかを実際に道順説明をしながら考える。

学習者

- ・自分の住んでいる町(三郷)について知り、簡単な地図(三郷の地図・自宅周辺)が読めるようになる。
- ・自分の家の周囲、よく行くところ、よく知っているところについて、支援者とペアになって話し合い、場所を地図に記入し、簡単な説明も書いてみる。
- ・お気に入りの場所について簡単な紹介プレゼンをおこなう。

(5) 使い方

- ・白地図をもとに、支援者と学習者が双方向的な情報交換をしながら地域の地図を完成させる。

(6) 具体的な活用例

- ・白地図に学習者のよく行く場所の写真を貼ったり、絵を描いたりして、三郷の Our Map を完成する。
- ・地図をみながらミニプレゼンをおこなう。

三郷ガイド作成

(1)教材名称 学習者といっしょに作ろう～三郷ガイド～

(2)対象: 支援者

(3)目的・目標

自分たちが住む町の公共施設、お薦めスポットなどについて、学習者と一緒にガイドブックを作る。

(4)構成

施設等の写真と説明文。説明文作成にあたっての留意事項。

(5)使いかた

漢字使用の基準や、わかりやすい日本語について検討し、一般のガイド文を学習者向けにリライトする。

(6) 活用例

居住する町のガイドブック等を基に、基準を決めて支援者がリライトする。それを学習者の読解教材として利用したり、学習者自身が、自分のお薦めスポットについて紹介文を書く。

三郷の一年を振り返って

(1) 教材名称 三郷に来て、一年がたちました

(2) 対象: 学習者

(3) 目的・目標

居住地に来てからの日々をポジティブに振り返り、将来への展望につなげる。

(4) 構成

自分が努力したことを書く。→自分の将来を想像し、5年後の日記を書く。

(5) 使いかた

支援者とペアになり、居住地に来てから自分がしてきたことを振り返り、文章化する。学習した日の5年後の日付の行動を想像し、文章化する。

(6) 活用例: 日本語学習に励んだ、仕事を覚えるよう努力した、友達をたくさん作った…等ポジティブに体験を振り返る。5年後の今日のカレンダーを見ながら、現在の自分から想像する。5年後の自分の姿について支援者に話し、日記の形にまとめる。

(1) 教材名称 去年の三月に三郷に来ました

(発表会スピーチシナリオ)

(2) 対象: 学習者

(3) 目的・目標

質問に答えながら自分の1年間を振り返り、スピーチの基本構成を作る。

(4) 構成

居住地に来て驚いたこと、困ったこと、楽しかった思い出等を話して書く

→5年後の日記を書く→将来の夢を話して書く

(5) 使いかた

質問に答えながら、支援者とそれに関わる思い出について話したり、その時の気持ちを詳しく話したりする。支援者がサポートして、それらをまとめて文章化する。

(6) 活用例

居住地に来てからの1年を振り返ってスピーチするためのシナリオとして、質問を構成。引越越し当初困ったこと、その後にあった楽しい出来事、努力したこと、5年後に期待すること、将来の夢…という流れで、まとまったスピーチにする。

実際のスピーチは、上記の流れで学習者一人で行ってもよいし、複数の掛け合いで進めてもよい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

地域に定住した第三国定住難民に対する日本語学習支援を、地域の人と共に行うことによって、第三国定住難民の日本語力向上を図るとともに、地域において第三国定住難民への理解が進むこと、日本語教育を行う人材が地域に育つこと、継続的な日本語学習支援が地域で行われていくことを目指す。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

1 第三国定住難民の日本語力の向上に関して（達成状況 約70パーセント）

事業開始時と事業終了時を比べると、学習者の口頭表現能力に大きな向上が見られた。読み書きについては漢字学習を着実に積み上げていくことで進歩が得られるという実感を学習者にもたせ、継続学習に対する意欲を喚起することができた。

他方、今回の事業では支援者との交流を通じた学習活動を重視したこともあって、読み書き学習に一定の時間をあてたものの十分な時間を確保することは困難であった。

（上記は教室の中で行われる学習者の自主的かつ積極的な発話の量と質の変化や、続けて勉強したいという学習者からの声、彼らが教室で書いたり読んだりしたものの検証結果に基づく）。

継続的に参加できた男性学習者については日本語力の向上が明らかだったが、仕事のシフトの関係で参加できなかった女性学習者3人は今回の事業の恩恵に浴することが全くできなかった。

上記を鑑み、目標の達成状況を約70パーセントとした。

2 日本語教育を行う人材の育成に関して（達成状況 約70パーセント）

全14回の講座および日本語教室への参加を通して、支援者が第三国定住難民と直に触れ合い、自然なコミュニケーションの機会を持ったことは大きい。難民にとって身近でかつ必要性の高いトピックを素材に教室活動を展開していくこと、学習者の発話を引き出す方法、時に他の日本人との交流をつなぐ役割もあること、それら全てが難民のニーズにあった学習活動につながると同時に支援者にとっても大きな学びの時間となること等を、支援者には体験してもらえたのではないかと思う。

他方、全14回のうち、はじめの4回の全体研修、講師養成講座には参加者が多数あったものの、実際に日本語教室への参加に結び付いた人数が少なかったことは残念である。また、せっかく来ていただいた一部の支援者は日本語教室の時間、保育に回らなければならない等、地元の支援者の参加者確保については課題が残った。

参加していただいた地元の支援者はそれぞれにボランティア活動をしている人が多かった

ので、活動時間帯が重なってしまう中での最大限の参加協力をしていただいたものと感じている。難民の継続的な学習環境を確保していくために今後は地元のボランティアグループ間での連携、地域の支援者の層の拡大、そして支援者に向けた「生活日本語」の教え方研修の継続などが必要であろう。

三郷市外の地域から、学生等、若い世代の参加があったことは第三国定住について理解者を増やすという意味でたいへん良かったと感じる。(成果の検証は支援者に提出していただいた振り返りシート、直接聞いたコメント等に基づく)。

3 日本語教育のための学習教材の作成 について (達成状況 約70パーセント)

講師作成のもの、講師の助言の下に支援者が作成したもの、講師、支援者、学習者が協力しあって作り上げたもの等、三郷市に住む第三国定住難民に合わせた教材が多く生まれた。最後に全員で作成した三郷マップは大きなラミネート版にして、難民の自宅に1枚ずつ持ち帰ってもらって、引き続き学習素材として活用してもらうことができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

日本語教育を行う人材の養成・研修 の中で、「標準的なカリキュラム案教材例集」を配布してその概要や理念を伝え、「標準的なカリキュラム案」で取り上げられている「生活上の行為」について、学習者を想定した上で、どのような行為ができるようになりたいと思うか、また実際にどのような行為ができると思うかを考えてもらった。支援者の中には学習者とこれまで関わってきたが、こうした「生活上の行為」について学習者と話したことが全くないので、彼らが何か必要で何ができるか分からないという答えもあり、それこそが、生活のための日本語を支援していく上での「大きな気づき」となった。「標準的なカリキュラム案教材例集」を概観することで、支援者は「生活上の行為」の教材化について一定のイメージを得ることができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

学習者が暮らす地域の住民である支援者と協働で日本語教室を行うことで、学習者の日常生活における興味関心を引き出しながら日本語の学びにつなげるいい流れを作ることができた。その成果として、学習者、支援者、市職員、日本語講師の力を合わせた「町の生活マップ」を完成させることができた。

(5) 改善点、今後の課題について

今回の活動自体は、学習者の日本語学習意欲を高めて将来につなげる 内容であり、一定の評価を得られるものであったと思う。しかし、活動の継続性という観点からは、まだ、今後につなげていくための支援体制が十分に整っているとは言い難い。

少人数による支援では将来的に息切れしてくる可能性があり、十分な人材の確保が不可欠である。今回の事業の対象ではなかったが、今後、学習者のこどもたちが成長して、高校入試などの問題に直面してくることも考えると、もっと地域全体の関心を高める努力をして、

協力者を募っていくことが急務である。

(6) その他参考資料

- ・講師作成オリジナル教材添付
- ・支援者振り返りシート抜粋